平成 17 年度中部環境パートナーシップオフィス

運営業務報告書（10－12 月期）

特定非営利活動法人　ボランタリーネイバーズ

〈平成１７年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（10-12 月）報告書〉

１　目　的

平成 15 年７月に制定された「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」(法律第 130 号)第 19 条において、環境保全の意欲の増進を効果的に推進するため、拠点としての機能を担う体制を整備することとされ、また、基本方針（平成 16 年９月閣議決定）において、地域のパートナーシップづくりの支援拠点を地方環境対策調査官事務所(以下「地方事務所」)ごとに設置していくこととされている。

中部地方事務所においては、市民、環境ＮＧＯ／ＮＰＯ、行政、事業者等各主体間の対話、交流、連携の場や情報の提供等の環境パートナーシップ事業を行うための活動拠点として、名古屋市中区三の丸の愛知県東大手庁舎に「中部環境パートナーシップオフィス（以下「中部オフィス」という)」を平成 17 年３月に開設した。

本業務は、環境パートナーシップを推進するための各種事業等を企画・運営することにより、市民、環境ＮＧＯ／ＮＰＯ、行政、企業等社会を構成する主体によるパートナーシップにおける取組のための基盤形成を促進する。

２　業務内容

⑴ 維持管理業務

① 開館日は、原則火～土曜日（日・月曜日及び祝日、旧盆・年末年始は閉館）とし、開館時間は、原則、午前１０時から午後７時とする。

② 職員を２名程度、配置するものとする。

③ 複写機、印刷機、通信機器等の借料等中部オフィスの維持管理に関する事務を行う。

⑵ 中部オフィスの広報・後援業務

中部管内の国の出先機関や県・市町村、環境ＮＧＯ／ＮＰＯ等に対し、必要な広報・後援を行うものとする。

⑶ 環境パートナーシップ推進業務

①様々な主体間における連携の促進

中部管内の現状及び課題を把握するとともに、環境問題の解決に向けた市民、環境ＮＧＯ／ＮＰＯ、行政、行政、市民、企業など、様々な主体間の連携を促進するため、意見交換会やワークショップ、環境報告書を読む会等を開催する。

②環境パートナーシップ形成の推進等に係る人材の育成

次世代を担う青年層を中心に、環境に係わる様々な主体間のパートナーシップ形成を推進するための人材育成に取り組む。

⑷ 環境情報の収集、提供業務

①環境関連書籍・資料等の収集、提供

環境に関する書籍や、環境ＮＧＯ／ＮＰＯや企業、行政等から環境情報資料等を収集・整理し、提供する。

②各主体の取り組みに関する情報を収集、提供。

環境パートナーシップに関連する事例や情報を収集・整理し、ホームページ等各種媒体を用いて広く情報発信を行う。

⑸ 地域活動支援業務

①ミーティング、交流等の場の提供

来所者が親しみやすく利用しやすいよう施設・設備の維持管理に努めるとともに、ミーティングなど少人数の打合せ、環境ＮＧＯ／ＮＰＯの活動の展示や交流の場を提供する。

②助言・相談業務

環境活動の取り組み等に関する相談、助言を行う。

⑹ 運営委員会の設置準備・開催

中部オフィスで実施する事業に関する助言等を得るため、中部環境パートナーシップオフィス運営委員会(仮称)を設置し、１回程度開催する。

⑺ その他業務

上記業務のほか、中部地方環境事務所又は請負団体において必要と判断する業務について、双方協議のうえ、実施することが出来る。

〈平成１７年度１０月期　事業報告書〉

下記は、平成 17 年度 10 月 1 日から３1日にかけて中部環境パートナーシップオフィスが実施した事業内容を報告するものである。

【平成 17 年度１０月期事業概要】

平成 17 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（10 月）は以下のとおりである。

① 維持管理業務

② 環境情報の収集、提供業務/地域活動支援業務

③ 環境パートナーシップ推進業務

環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィスオープン記念フォーラムの企画・準備

④ その他

【業務報告】

（1） 維持管理業務：中部環境パートナーシップオフィス（以下ＥＰＯ中部）の適切な運営体制、施設の維持管理

① 10 月より閉館時間を延長し、１９：００までとした。

開館日時　原則火曜日―土曜日　１０：００－１９：００　日・月曜日及び祝日、旧盆・年末年始は閉館

② 職員

常勤職員２名、非常勤職員１名のうち、ほぼ２名体制で業務を実施した。特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズの職員が業務のサポートをした。

③ 実施業務

〇案内業務

１）来館受付、案内・説明、電話対応

２）施設利用者数の確認

３）パネル・パンフレット及び図書の整理・補充、ポスター掲示

・必要に応じ随時実施（開館時間内は、常時対応できる体制を確保）

・日々確認して記帳整理

・必要に応じ随時実施

（2）環境情報の収集、提供業務

ＥＰＯ中部ホームページの製作

（3）環境パートナーシップ推進業務

環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィスオープン記念フォーラムの企画・準備

＊チラシの製作・ゲストとの調整・当日の運営企画

（4）地域活動支援業務

施設に廃材を利用した棚、いすを設置。布製バナーも製作した。

中部経済産業局へのあいさつ（10 月４日）

特定非営利活動法人地域の未来・志援センターヒアリング対応（10 月４日）

三重県農水商工部を中心としたワークショップグループヒアリング（10 月 20 日）

北海道環境財団のヒアリング（10 月 20 日）

中部経済同友会環境委員会にアドバイザーとして参加〈10 月 26 日）

○中部環境パートナーシップオフィス　月報　　137 名/19 日　7.2 人/日　問い合わせ　14 件

１０　月		来館者数 (相談・問合せ)	電話による相談・ 問合せ	相談・問合せ内容	スタッフ数
1	土	1(0)	0		3
2	日				
3	月				
4	火	9(2)	2	・EPO 中部に関するヒアリング	3
5	水	8(0)	1	・EPO 中部に関するヒアリングの依頼 （北海道環境財団）	2
6	木	9(0)	0	・企業とＮＰＯの協働に関するヒアリング （中部経済同友会）	3
7	金	3(0)	0		3
8	土	1(0)	1	・EPO 中部ホームページアドレスの問合せ	3
9	日				
10	月				
11	火	10(1)	0	・EPO 中部訪問	3
12	水	16(0)	0		3
13	木	8 (0)	0		2
14	金	9(0)	0		2
15	土	3 (0)	0		3
16	日				
17	月				
18	火	9(1)	0	八ヶ岳中信高原国定公園の連絡先の問合せ	4
19	水	7(0)	0		2
20	木	11 (3)	0	・EPO 中部に関するヒアリング（北海道環境財団） ・EPO 中部訪問（三重県職員）	3
21	金	5 (2)	0	・EPO 中部訪問	3
22	土				3
23	日				
24	月				
25	火	7(1)	0	・EPO 中部来館（フォーラムのお問い合わせ）	3
26	水	1(0)	0		3
27	木	5(1)	0	・ＥＰＯ中部についての質問	2
28	金	15(3)	0 Mail での お問い合わせ	・環境 NPO 総覧の閲覧 ・ＥＰＯ中部についての質問 ・大学院生より企業の CSR について ・三重県職員研修講師依頼	2
29	土				
30	日				
31	月				

○中部地区の環境関連団体の基礎資料の収集、管理

＊１０月期に収集した資料　行政関連：15 種　企業関連：33 種　ＮＰＯ関連：15 種　ほか：０種　計：63

タイトル	年度	発　行	備考
第１回「矢作川森林の健康診断」報告会 ～診断結果シンポジウム～	2005	矢森協（矢作川水系森林ボランティア協議会）/ 豊田市森林課	A4　1P　日本語 2005.発行
第１回土岐川・庄内川源流森の健康診断	2005	土岐川・庄内川源流　森の健康診断実行委員会	A4　1P　日本語 2005.発行
日本ビオトープ管理士会		日本ビオトープ管理士会　事務局	1/3A４　1P　日本語
日本ビオトープ管理士会 会員名簿　平成 17 年度	2005	日本ビオトープ管理士会	A４　78P　日本語
Biotop ビオトープを考える会　会報	2005	ビオトープを考える会	A4　16P　日本語 2005.10.11 発行
ビオトープを考える会	2005	ビオトープを考える会	1/3A４　1P　日本語
川づくり会議みえ みんなが遊べる魅力ある川づくりをめざして		川づくり会議みえ	A4　1P　日本語
川づくり会議みえ・第 20 回記念勉強会 「農業基盤整備と生物生息環境の調和」	2005	川づくり会議みえ	A4　1 P　日 本 語 2005 発行
第２回「川のワークショップみえ」 開催のお知らせ！！	2005	川づくり会議みえ	A4　1P　日本語 2005 発行
伊勢湾に注ぐ河川の川魚を救うワークショップ 「川魚のすむ私たちの川を未来に！」 ～ふるさとの宝物で河川環境を保全しよう～ 記録集	2005.	川づくり会議みえ	A4　25P　2005 発行
第１回 川のワークショップみえ みえの山～川～海のはっぴょうかい 記録集	2004	川づくり会議みえ	A4　29P　日本語 2004 発行
よくわかる環境教育 日本も取り組む学校ビオトープ 第３回全国学校ビオトープ・コンクールより	2003	財団法人日本生態系協会	A４　83P　日本語 2004 発行
「持続可能な開発のための教育の 10 年」 推進会議（ESD-J）のご案内	2005	（特定）「持続可能な開発のための教育の 10 年」 推進会議（ESD-J）	A4　1P　日本語 2005.9 発行
ESD レポート　2005 秋　vol.5	2005	（特定）「持続可能な開発のための教育の 10 年」 推進会議（ESD-J）	A4　8P　日本語 2005.9.15 発行
リニモを活かした地域づくり・地域交通のためのフォーラム 講演と懇談のつどい	2005	愛知県企画振興部交通対策課/ （特定）ボランタリーネイバーズ	A4　1P　日本語 2005.10 発行
平成 18 年度環境白書表紙絵コンクール	2005	環境省/財団法人日本環境協会	A4　1P　日本語 2005 発行
平成 17 年度ごみゼロ社会推進あいち県民大会	2005	ごみゼロ社会推進あいち県民会議	A4　1P　英語 2005.発行
Cabi ネット 10.15	2005	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4　50P　日本語 2005.10.15 発行
ASIA・PACIFIC：JAPAN+ November2005　PERSPECTIVES	2005	社団法人時事画報社	A4　48P　英語 2005.11.7 発行
カゴメ株式会社 環境報告書 2004 年版	2004	カゴメ株式会社品質保証室	A4　22P　日本語 2004.8 発行

イビデン株式会社 社会環境報告書 2005	2005	イビデン株式会社環境安全衛生保安部	A4　34P　日本語 2005 発行
日置電機株式会社 2004 年度 HIOKI 報告書	2004	日置電機株式会社総務課	A4　22P　日本語 2005.3 発行
セイコーエプソン株式会社 サステナビリティレポート 2005	2005	セイコーエプソン株式会社 CSR 推進部	A4　72P　日本語 2005.6 発行
東海ゴム工業株式会社 Tokai's SUSTAINABILITY REPORT 2004	2003	東海ゴム工業株式会社環境管理部	A4　36P　日本語 2004.1 発行
日本ガイシ株式会社 環境・社会レポート 2005	2005	日本ガイシ株式会社広報	A4　44P　日本語 2005.7 発行
株式会社ナナオ 社会・環境報告書 2005	2005	株式会社ナナオ総務部環境管理室	A4　21P　日本語 2005.9 発行
アイシン・エィ・ダブリュ株式会社 AISIN AW ENVIRONMENTAL REPORT 2005	2005	アイシン・エィ・ダブリュ株式会社 経営企画本部安全環境部	A4　58P　日本語 2005.10 発行
松下エコシステムズ株式会社 環境経営報告書 2005	2005	松下エコシステムズ株式会社 クオリティーセンター環境・コンサルチーム	A4　18P　日本語 2005.9 発行
三協・立山ホールディングス株式会社 社会・環境報告書 2005	2005	三協・立山ホールディングス株式会社	A4　37P　日本語 2005.8 発行
シヤチハタ株式会社 環境報告書 2004	2004	シヤチハタ株式会社　環境管理課	A4　22P　日本語 2004.12 発行
豊田合成株式会社 豊田合成環境・社会報告書 2005	2005	豊田合成株式会社総務部総務室	A4　35P　日本語 2005.6 発行
株式会社ノリタケ カンパニーリミテド 社会環境報告書　2005	2005	株式会社ノリタケ カンパニーリミテド 生産技術センター環境管理グループ	A4　29P　日本語 2005.7 発行
愛知製鋼株式会社 愛知製鋼環境報告書 2004	2004	愛知製鋼株式会社安全衛生環境部	A4　26P　日本語 2004.12 発行
トヨタ紡織株式会社 環境社会報告書 2005	2005	トヨタ紡織株式会社環境安全衛生部	A4　34P　日本語 2005.9 発行
株式会社ポッカコーポレーション 環境報告書 2005	2005	株式会社ポッカコーポレーション環境室	A4　23P　日本語 2005.発行
愛三工業株式会社 環境・社会報告書 2005	2005	愛三工業株式会社環境部	A4　26P　日本語 2005.6 発行
豊田通商株式会社 CSR Report 2005	2005	豊田通商株式会社広報・IR 室	A4　38P　日本語 2005.9 発行
アイシン精機株式会社 環境・社会報告書 2005	2005	アイシン精機株式会社環境部	A4　54P　日本語 2005.9 発行
リンナイ株式会社 Green Report 2005　環境報告書	2005	リンナイ株式会社環境部	A4　26P　日本語 2005.8 発行
株式会社東海理化 環境報告書　2005	2005	株式会社東海理化施設環境部	A4　33P　日本語 2005.6 発行
株式会社東海理化 東海理化エコブック 2005	2005	株式会社東海理化施設環境部	A4　14P　日本語 2005.6 発行
株式会社東海理化 Tokai Rika Eco Book 2005	2005	株式会社東海理化施設環境部	A4　14　日本語 2005.6 発行
株式会社東海理化 Environmental Data File 2005	2005	株式会社東海理化施設環境部	A4　6P　日本語 2005.6 発行

ユニー株式会社 環境レポート 2005	2005	ユニー株式会社環境部	A4　30P　日本語 2005.8 発行
国・県・市による行政・法律なんでも相談所 ～一日合同行政相談所～	2005	総務省中部管区行政評価局 愛知官公庁行政相談連絡協議会	A4　1P　日本語
Cabi ネット 10.01	2005	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4　50P　日本語 2005.10.1 発行
北海道環境パートナーシップオフィス 整備運営検討業務報告書	2005	財団法人北海道環境財団	A4　34P　日本語 2005.9 発行
建設業しんこう	2005	財団法人建設業振興基金	B5　62P　日本語 2005.10.5 発行
特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ アニュアルレポート 2004	2005	（特定）ボランタリーネイバーズ	A4　59P　日本語 2005.7 発行
私たちにできることは、なんだろう。	2004	財団法人 2005 年日本国際博覧会協会	A5　271P　日本語 2005.3.25 発行
地球市民村から 100 の質問		地球市民村事務局	A5　14P　日本語
株式会社豊田自動織機 アニュアルレポート　2005	2004	株式会社豊田自動織機 安全衛生環境部　環境室	A4　108P　英語 2005.3.31 発行
株式会社豊田自動織機 セミアニュアルレポート　2005	2004	株式会社豊田自動織機 安全衛生環境部　環境室	A4　25P　英語 2004.9.30 発行
株式会社豊田自動織機 アニュアルレポート　2004	2003	株式会社豊田自動織機 安全衛生環境部　環境室	A4　92P　英語 2004.3.31 発行
株式会社豊田自動織機 セミアニュアルレポート　2004	2003	株式会社豊田自動織機 安全衛生環境部　環境室	A4　59P　英語 2003.9.30 発行
株式会社豊田自動織機 第 127 期　事業報告書	2005	株式会社豊田自動織機 安全衛生環境部　環境室	14P　日本語 2005.6 発行
株式会社豊田自動織機 第 127 期　中間事業報告書	2004	株式会社豊田自動織機 安全衛生環境部　環境室	14P　日本語 2005.11 発行
株式会社豊田自動織機 会社概要最新版		株式会社豊田自動織機 安全衛生環境部　環境室	A4　20P　日本語 2005 発行
株式会社豊田自動織機 社会環境報告書 2004 年度版	2004	株式会社豊田自動織機 安全衛生環境部　環境室	A4　20P　日本語 2004.7 発行
みんなが主役の環境教育シンポジウム 第 4 回奈良―地域を生かした環境教育―	2005	日立環境財団/ 近畿環境パートナーシップオフィス	A4　1P　日本語 2005.発行
環境省重点事項ブリーフィング in 近畿	2005	環境省きんき環境館	A4　1P　日本語 2005.発行
きんき環境館　創刊号	2005	環境省きんき環境館	A4　10P　日本語 2005.9.発行
なごや環境大学ガイドブック 2005 秋	2005	「なごや環境大学」実行委員会事務局	A4　68P　日本語 2005.発行

所　見

10 月は、１１月２日のオープン記念フォーラムの準備が大半の業務をしめた。EPO 中部として、はじめて環境省と協働で企画・運営する事業であるため、つくりあげるプロセスでのコミュニケーションに時間をかけた。

また、三重県職員や中部産業同友会の方が、EPO 中部に来館され、ＮＰＯとの協働について意見を交わした。行政も企業も、ＮＰＯとの接点を探している。そのマッチングをするのも EPO 中部の重要な役割であることを、両者との対話から実感した。

ホームページも、双方向コミュニケーションが図れるように、少しずつであるが、内容を濃くしている。オープン記念フォーラムが終わった後、本格的にプロジェクトをすすめるための体制づくり、準備に入る。対話を重ね、「環境パートナーシップ」の具体化をすすめる。

〈平成１７年度１１月期　事業報告書〉

下記は、平成 17 年度 11 月 1 日から 30 日にかけて中部環境パートナーシップオフィスが実施した事業内容を報告するものである。

【平成 17 年度１１月事業報告】

平成 17 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（１１月）については、滞りなく担うことができた。11 月のメイン事業として、環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィスオープン記念フォーラムがあげられるが、別紙を参照していただきたい。

（1）維持管理業務：中部環境パートナーシップオフィス（以下ＥＰＯ中部）の適切な運営体制、施設の維持管理

閉館時間：10 月より閉館時間を延長し、１９：００までとした。

開館日時　原則火曜日―土曜日　１０：００－１９：００　日・月曜日及び祝日、旧盆・年末年始は閉館

職員：常勤職員２名、非常勤職員１名のうち、ほぼ２名体制で業務を実施した。特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズの職員が業務のサポートをした。

実施業務

〇案内業務

１）来館受付、案内・説明、電話対応

２）施設利用者数の確認

３）パネル・パンフレット及び図書の整理・補充、ポスター掲示

・必要に応じ随時実施（開館時間内は、常時対応できる体制を確保）

・日々確認して記帳整理

・必要に応じ随時実施

（2）環境情報の収集、提供業務

ＥＰＯ中部ホームページの管理・運営（更新基本的に月に２回）

（3）環境パートナーシップ推進業務

環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィスオープン記念フォーラムの実施

中部地方環境対策調査官事務所と中部環境パートナーシップオフィスの紹介と地域のステークホルダーの方々との情報交流の場として実施した。

日時：２００５年１１月2日（水）　１４：００～１８：００（１３：３０開場）

１８：１５～１９：３０＊ＥＰＯ中部にて簡単な軽食付交流会（参加費徴収）

場所：愛知県東大手庁舎(名古屋市中区三の丸)

あいちＮＰＯ交流プラザ（Ａ）第１部/あいちＮＰＯ交流プラザ（Ｃ）第２部/ＥＰＯ中部（第３部）

参加者数：約 100 名

参加費：無料（第３部のみ徴収　1,000 円）

内　容

第１部　オープニング：中部地方環境事務所の紹介/中部環境パートナーシップオフィスの紹介

プレゼンテーション・ディスカッション「地域からの環境パートナーシップづくりーＥＰＯ中部に期待すること」

第２部　中部７県パートナーシップ・ラウンドトーク

第３部　交流会

＊詳細は報告書参照

（4）地域活動支援業務

株式会社ポッカコーポレーション環境部担当者との企業の CSR に関する意見交換（11 月４日）
名古屋大学大学院生とグローバリズムにおける企業に CSR の役割について意見交換（11 月 10 日）
名古屋産業大学大学院生と名古屋市における環境学習のあり方についての意見交換（11 月 22 日）
住友商事株式会社 CSR 担当者と意見交換（11 月 24 日）
アースディ 2005 についての意見交換（11 月 16・24 日）
環境教育ミーティング中部に参画（11 月 26･27 日）

（5）その他業務

平成 17 年度１２～3 月事業の準備

○企業と市民の協働研究＆対話の場～環境報告書を読む会

昨今、企業が環境に対する取り組みや、発生する環境負荷の実態等を幅広い利害関係者（ステークホルダー)に提供する「環境コミュニケーション」が重要視されています。そしてその媒体として、多くの企業が「環境報告書」を作成し、その内容も向上しています。しかし、まだまだ一方向のコミュニケーションのままであり、地域においてはまだまだ十分な情報を得ることがなく、企業と具体的なパートナーシップ事業を起こすに至っていないのが現状です。

そこで、EPO 中部では、企業の環境担当者を招き、「環境報告書」をツールにした対話の機会を設けます。企業の環境対策、環境技術、社会貢献活動について双方向でコミュニケーションを交わす場です。お互いの違いを認め、相互理解を深め、協働の種を見つけます。

【企画内容】

日　程：2005 年 12 月―2006 年３月　毎月１回　時間帯 18:30-20:00
場　所：EPO 中部　参加者：定員 15 名（先着順）
スケジュール
　12月 21 日（水）：第１回　東邦ガス株式会社　担当　山口氏/磯村氏　＆　ＮＰＯ　未定
　　2月：第２回　中部電力株式会社　担当　片岡氏　＆　ＮＰＯ
　　3月：第3回　ユニー株式会社　　担当　百瀬氏　＆　ＮＰＯ

○環境基本計画意見交換会＆環境省重点事項ブリーフィング

平成 17 年２月から環境基本計画の見直しが中央環境審議会で始まっています。来年１月のパブリックコメント募集までに、環境基本計画の見直しに関する意見交換会を、NPO や企業の方々の参加を得て開催します。今後の環境基本政策の方向性　について政策担当者と企業や NPO の方々が現状や問題・課題を共有し、議論をする場を設けることを目的としています。論点整理の強化を通じて、パブリックコメントなどで意見提出が活発になされることを目指します。また、環境省が行っている重点事項について説明を行うブリーフィングを実施します。

＊開催時期：１月下旬から２月上旬の計３回　対象：30 名程度　場所：中部地方環境事務所

○中部７県タウンミーティング～話そうよ！エコのこと、EPO のこと

中部７県の NPO を中心とするステークホルダーと現在の環境活動（特に環境パートナーシップ）について、そして EPO 中部の役割・機能について、議論する場を設けます。意見交換の場において、EPO 中部への関心や参画意識を高め、持続可能な地域社会をつくるための「具体的事業の展開」について、意見交換をします。３月末には、その過程を踏まえ、運営会議・および評価委員会の体制および機能を明確にします。

＊スケジュール：北陸・長野エリアー1 月に北陸および長野に打合せ　２月に実施予定
　　東海エリアー2 月に打合せ　３月に実施予定

○「持続可能な開発のための教育の 10 年」　東海ブロックミーティング　要領

2003 年に愛知、岐阜、三重といった東海地域において、ESD 地域ミーティングを実施した後、様々な実践が個別に行われていますが、その実践の共有、共通の基盤を確認し連携することで、より地域のニーズに合った総合的で、効果的な ESD につなげ、広げるための組織づくりを始めます。ESD の地域活動を活性化し、ESD の学びを地域に根づかせるための組織として ESD－T（愛知・岐阜・三重）を立ち上げます。

テーマ：「持続可能な社会をつくる「教育のしくみ」を探る～」

日　時：12 月 18 日（日）10：00～17：00　　17：30～19：00（懇親会）500 円

場　所：新東通信株式会社（名古屋市中区丸の内３丁目 16 番 29 号）

参加費：無料（交流会のみ 500 円徴収）

主　催：環境省

協　力：特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議
　　エコプラットフォーム東海/中部環境パートナーシップオフィス

○今後の検討事項

１）ＥＰＯ中部　他団体との関係について（共催・協力・後援など）

＊ＥＰＯ中部の理念に沿った事業とは？（案）

- パートナーシップ事例となる事業
- ＥＰＯ中部の参画を要する事業
- 単体のＮＰＯ／ＮＧＯが実施するものではなく、ネットワークおよびＮＰＯ協働団体が主催する事業
- 次世代支援となる事業
- 事業主催ＮＰＯの自立のサポートとなる事業
- 他環境省中部地方環境事務所と協議の上必要と判断した事業

２）ＥＰＯ中部　スタッフローテーション（案）

	月	火	水	木	金	土	日
担当	第１新海 第４新海	☆新海 間島	☆桜井 新海 間島	☆　桜井 新海 間島	☆　新海 間島	第１　間島　桜井 第２　新海　間島　桜井 第3　桜井　新海 第4　第４　間島　桜井	

＊早番☆　　：９：３０－１８：３０　○通常勤務☆以外：１０：００－１９：００

＊基本的にはイベントがある日は３人出勤し、出勤数が超えている場合は、代休をとる。

＊出張・外部での会議はなるべく水・木曜日とする。

＊欠勤の場合は、事前に（なるべく早く）新海に報告し、ＥＰＯ中部スタッフ内で調整する。調整不可能な場合には新海がボランタリーネイバーズ本体と調整する。

３）運営会議・評価委員の選定

中部７県タウンミーティング後、早急にその役割を明確にし、委員を依頼する。

４）協働事業の評価軸の創出

事業後の内部評価をするためにつくり、公開していきたい。なんのために、だれのために実施し、どのような影響力をもったのか（成果）を情報公開する。

○中部環境パートナーシップオフィス　　月報２２２名/20 日　１１.１人/日　問い合わせ　４３件

１１　月		来館者数 (相談・問合せ)	電話による相談・問合せ	相談・問合せ内容	スタッフ数
1	火	7(0)	3	オープニング記念フォーラム参加申込に関する問合せ。	3
2	水	約 100	3	オープニング記念フォーラム参加申込に関する問合せ。	3
3	木				
4	金	16(2)	0	・EPO 中部訪問。 ・企業の CSR に関する意見交換	3
5	土	2(0)	0		3
6	日				
7	月				
8	火	5(2)	1	・ EPO 中部訪問。EPO 中部についての質問。 ・ EPO 中部リーフレット取寄せの依頼。	2
9	水	12(2)	0	・ 「あいち水循環再生基本構想」の情報収集。 ・ EPO 中部が収集した企業の環境報告書リストの請求。	2
10	木	１２(3)	0	・ 「地域の未来・志援センター」の活動についての相談。 ・ 「第７回全国メダカシンポジウム」の告知。 ・ CSR についてのヒアリング。	3
11	金	１３(2)	0	・ 「第７回全国メダカシンポジウム」の告知等	3
12	土	3(0)	0		2
13	日				
14	月				
15	火	4(2)	0	・EPO 中部訪問。	3
16	水	6(5)	1	・ EPO 中部訪問。 ・ EPO 中部の運営状況に関する問合せ。	2
17	木	9(0)	0		3
18	金	12(3)	1	・ EPO 中部訪問。 ・ パンフレット郵送の問合せ。EPO 中部内でのパンフレット展示の問合せ。	2
19	土	0	0		2

20	日				
21	月				
22	火	3(1)	0	・愛知県内における環境学習講座についてのヒアリング。	3
23	水				
24	木	2(2)	0	・環境省中部地方環境事務所の所在地確認。	2
25	金	5(2)	0		2
26	土	3	3		2
27	日				
28	月				
29	火	4(3)	0	・EPO 中部訪問	2
30	水	4	3		1

○中部地区の環境関連団体の基礎資料の収集、管理

＊１１月期に収集した資料　行政関連：１５種　企業関連：９種　ＮＰＯ関連：３１種　ほか：１７種　計：７２

タイトル	年度	発　行	備考
あいち木づかいプラン 県産材利用促進に向けた取組計画 （平成 17 年度～19 年度）	2005	愛知県農林水産部林務課	A4　26P　日本語 2005.4.発行
みんなの森林　国有林		中部森林管理局	14P　日本語
セダムでどこでも緑化		EERP（イー・ツー・アール・ピー）	A４　2P　日本語
第 18 回あいち都市緑化フェア イベント企画運営協力団体募集案内	2005	愛知県建設部公園緑地課	A４　1P　日本語 2005 発行
ラムサール条約湿地 藤前干潟への誘い	2004	名古屋市環境局環境都市推進課	1P　日本語 2005.3 発行
藤前干潟ふれあいデー2005	2005.	名古屋市環境局環境都市推進課	A4　1P　2005 発行
日本最大級のシギ・チドリ渡来地 藤前干潟　国指定　鳥獣保護区 ラムサール条約登録湿地		環境省自然環境局中部地区自然保護事務所 名古屋支所	1/4A3　1P　日本語
わがまちの自然観察と保全活動の概要		高座地区コミュニティ推進協議会	A４　1P　日本語
環境省主催　VOC（揮発性有機化合物） 排出抑制　推進セミナー　（ご案内）	2005	社団法人全国環境保推進連合会 VOC セミナー受付係	A4　1P　日本語 2005.発行
池をそのままリフレッシュ		EERP（イー・ツー・アール・ピー）	A4　1P　日本語
平成 18 年度前期　なごや環境大学　共育講座 募集要領（市民・市民活動団体用）	2005	「なごや環境大学」実行委員会事務局	A4　10P　日本語 2005 発行
国連持続可能な開発のための教育の 10 年がはじまります　2005～2014		環境省総合環境政策局環境教育推進室	A421P　日本語
まちづくりと NPO の情報をお届けする ボラネイ☆キャラバン　Vol.6	2003	（特定）ボランタリーネイバーズ	A4　65P　日本語 20054.1.10 発行
220 万市民の「もういちど！」大作戦 みんなでへらそう CO2		名古屋市環境局環境都市推進課	1P　日本語
みえ環境創造リーグ通信　2004 第 1 号	2004	みえ環境県民運動協議会 （通称：みえ環境創造リーグ）	A4　2P　日本語 2005.12 発行
みえ環境創造リーグ通信　2005 第 3 号	2005	みえ環境県民運動協議会 （通称：みえ環境創造リーグ）	A4　2P　日本語 2005.8 発行

地球がくれた宝物“炭と微生物”		（特定）矢作川と三河武士フォーラム	A4　1P　日本語
地方環境事務所 国と地域との新たな協働関係を築く拠点として	2005	環境省	A4　6P　日本語 2005.9 発行
愛知・岐阜・三重の環境に取り組む 「志」を応援します。 地域の未来・志援センター構想		（仮）環境サポートセンター設立準備会	1/3A4　1P　日本語
NPO グラウンドワーク東海		（特定）グラウンドワーク東海	1/3A4　36P　日本語 2004.1 発行
つな環　つ★な★ぐ★環境パートナーシップ第７号	2005	地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)/ 環境パートナーシップオフィス(EPO)	A4　15P　日本語 2005.10 発行
北陸電力株式 CSR 報告書 2005	2005	北陸電力株式会 経営企画部 CSR 推進チーム	A4　77P　日本語 2005.7 発行
名古屋鉄道株式会社 アクション エコ レポート 2005	2005	名古屋鉄道株式会社 アクション・エコ推進委員会事務局 （経営企画部内）	A4　31P　日本語 2005.9 発行
オーエスジー株式会社 環境報告書　2005	2005	オーエスジー株式会社 技術部 R&D センター 品質保証室環境保全チーム	A4　22P　日本語 2005.11 発行
シヤチハタ株式会社 環境報告書　2005	2005	シヤチハタ株式会社 環境事務管理部環境管理課	A4　26P　日本語 2005.10 発行
なごやボランティア・NPO センター「マネジメントセミナー」シリーズ シンポジウム「指定管理者制度を語る。-市民に役立つ公共施設のために-」	2005	なごやボランティア・NPO センター	A4　1P　日本語 2005 発行
郡上の自然を活かし、郡上の暮らしに貢献 特定非営利活動法人　メタセコイアの森の仲間たち		特定非営利活動法人　メタセコイアの森の仲間たち	1/3A4　1P　日本語
ECO STATION　県民エコステーション		社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議	1P　日本語
自然がすきですか？地域に根ざした活動を、いっしょに進めていきませんか。 出会う、分かちあう。環境教育ネットワークとやまエコひろば		環境教育ネットワークとやまエコひろば	A4　1P　日本語
麻と EM による革命	2002	高木　繁伎	B5　12P　日本語
Schan　エスチャン　高校生のためのオトナカタログ　Vol.10	2005	（特定）愛知市民教育ネット	A4　34P　日本語 2005.10.11 発行
VNS 月１ニュース　NO.29	2005	（特定）ボランタリーネイバーズ	A3　1P　日本語 2005.10.24 発行
Cabi ネット 11.01	2005	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4　50P　日本語 2005.11.1 発行
地球環境市民大学校　環境 NGO と市民の集い NGO と企業のフロンティア	2005	独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金/ （特定）パートナーシップ・サポートセンター	A4　1P　日本語 2005 発行
地球環境市民大学校　マネジメント講座 NPO をマネジメントしよう!!	2005	独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金/ （特定）パートナーシップ・サポートセンター	A4　1P　日本語 2005 発行
第３回日本環境経営大賞	2004	三重県環境森林部環境経営室内/ 「日本環境経営大賞表彰委員会」事務局	A4　22P　日本語 2004 発行

あいち水循環再生基本構想（案）	2005	愛知県	A4　49P　日本語 2005.10 発行
プロジェクト・レポート　中部地方の明日をつなぐ道・地域づくり情報誌 2005AUTUM No.43	2005	国土交通省中部地方整備局東海幹線道路調査事務所	A4　22　日本語 2005 発行
こどもエコクラブ　メンバー募集中!!		こどもエコクラブ全国事務局 財団法人日本環境協会	A4　1P　日本語
わたしたちの未来のための地球環境講演会 美しい地球を子どもたちに ～50 年先の未来を見つめて～	2005	きら環境セミナー実行委員会	A4　1P　日本語 2005 発行
豊田市自然観察の森 雑木林　2005 年　11 月号	2005	豊田市自然観察の森	2/1A4　1P　日本語 2005 発行
05 夏の信州こども山賊キャンプ 事業報告書	2005	（特定）グリーンウッド自然体験教育センター	A4　67P　日本語 2005.9.15 発行
住民参加で学校がいきかえる 森に冒険基地を作ろう！ 子どもの手による遊び場作りのための基盤整備事業	2004	（特定）グリーンウッド自然体験教育センター	A4　35P　日本語 2004.12.20 発行
いつの時代も変わらない宝物。 Safety & Peace & Nature by NPO 法人グリーンウッド自然体験教育センター		（特定）グリーンウッド自然体験教育センター	B5　62P　日本語 2005.10.5 発行
東北アジア発 Kids'Au (R) 子どもたちのアジア連合		Kids'AU（R）子どもたちのアジア連合事務局	A4　2P　日本語
Kids'AU（R）Camp in Korea	2005	Kids'AU 国際本部	A4　1P　日本語 2005 発行
「やすおかふれあい子どもキャンプ」報告書	2005	やすおかふれあい子どもキャンプ実行委員会/ （特定）グリーンウッド自然体験教育センター	A4　30P　日本語 2005 発行
暮らしの学校　だいだらぼっち　地域活動報告書 山村留学の子ども達と地域住民によるコミュニティ作り実践	2004	（特定）グリーンウッド自然体験教育センター	A4　8P　日本語 2005.3.1 発行
サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワークのご案内		サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク（NSC）事務局	A4　2P　日本語
日本の重要湿地 500　中池見湿地 福井県敦賀市		（特定）ウエットランド中池見	A4　1P　日本語
緑と水の通信 2005 年 11 月 17 日発行　第 81 号	2005	ナチュラリスト敦賀　緑と水の会	A4　6P　日本語
環境クラブニュース	2005	有限会社環境クラブ	A4　4P　日本語 2005.11.1 発行
サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク（NSC） 2004 年度　部会活動報告書 CSR 部会　消費者部会　環境部会	2005	サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク	A4　157P　日本語 2005.10 発行
CSR の本質と現状	2004	サステナビリティ・コミュニケーション・ネットワーク （旧環境報告書ネットワーク）	A4　254P　日本語 2004.10 発行

CSR と持続可能性報告	2003	環境報告書ネットワーク	A4　219P　日本語 2003.9 発行
持続可能性報告のあり方（CSR の観点から） 電子媒体での環境情報の発信	2002	環境報告書ネットワーク（NER）	A4　250P　日本語 2002.9 発行
住友商事株式会社 住友商事　社会と環境に関するレポート 200	2005	住友商事株式会社 地球環境部	A4　46P　日本語 2005.7 発行
住友商事株式会社 インベスターズ・ガイド 2005	2005	住友商事株式会社 インベスターリレーションズ部	A4　136P　日本語 2005.7 発行
緑と水の通信 2005 年 11 月 17 日発行　第 81 号	2005	ナチュラリスト敦賀　緑と水の会	A4　8P　日本語 2005.11.1.発行
特定非営利活動法人ウエットランド中池見会報第６号	2005	（特定）ウエットランド中池見	A4　6P　日本語 2005.10.10.発行
なごやボランティア・NPO センターの情報誌ぼらんぽ　2005 年 11 月号　Vol.28	2005	なごやボランティア・NPO センター	B５　8P　日本語 2005.10.26 発行
平成 17 年度　第５回 NGO/NPO・企業環境政策提言フォーラム 市民・企業のアイディアを政策に！	2005	「NGO/NPO・企業環境政策提言推進委員会」事務局 （環境パートナーシップオフィス内）	A4　1P　日本語 2005 発行
平成 17 年度　第５回 NGO/NPO・企業環境政策提言フォーラム　応募提言	2005		A4　1P　日本語 2005 発行
ASIA・PACIFIC：JAPAN+ December.2005 PERSPECTIVES	2005	社団法人時事画報社	A4　6P　日本語 2005.10.10.発行
ASIA・PACIFIC：JAPAN+ December.2005 PERSPECTIVES	2005	社団法人時事画報社	A4　48P　英語 2005.12.1 発行
Cabi ネット 11.15	2005	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4　50P　日本語 2005.11.15 発行
JEAN NEWS 財団法人　日本環境協会　ニュースレター No.36	2005	財団法人日本環境協会	A4　8P　日本語 2005.12.1 発行
平成 17 年度　こども環境白書	2005	環境省総合環境政策局環境計画課	A4　40P　日本語 2005 発行
平成 16 年度　環境の状況 平成 17 年度　環境の保全に関する施策	2005		A4　278P　日本語 2005 発行
イルカクジラのススメ。 I・C・E・R・C		アイサーチジャパン 国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター	1/6A４　日本語
イルカ・クジラに会いたいあなたへ… 全国 10 カ所のウォッチングポイント情報とイルカ・クジラのために “私たちにできること”	2003	アイサーチジャパン 国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター	B5 24P　日本語 2003.7 発行
1.2.3.Sea.Go!!	2005	アイサーチジャパン 国際イルカ・クジラ教育リサーチセンター	A5 14P　日本語 2005.8 発行

所　見

11 月は月初めにオープニングフォーラムがあり、EPO 中部を取り巻く多様な人の顔が見え、活動が加速化する月であった。通常業務（窓口対応・情報収集提供）は平常どおりだが、来館者や問い合わせも増え、充実した業務内容となっている。また、来館していただいた方々から「施設がなじみやすくなった」とコメントをいただくこともあり、より温かみのある施設に整備し

ていきたい。

12 月以降の業務がかなり多いので、11 月後半はその準備におわれているが、どの業務も EPO 中部単独ではなく、企業なり、行政なり、地域の NPO の方々と相談・意見交換しながら、ていねいに進めたいと考える。時間はかかるが、そのプロセスこそがパートナーシップの種を見出し育てる作業であるから、じっくり関係性を育みたい。

一方、業務を進めるにあたり検討事項が増えてきたので、地方環境事務所と密に議論しながら、EPO への期待に応えられるような体制づくりをしていきたい。

〈平成１７年度１２月期　事業報告書〉

下記は、平成 17 年度 12月 1 日から 27日にかけて中部環境パートナーシップオフィスが実施した事業内容を報告するものである。

【平成 17 年度１２月事業報告】

平成 17 年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務（12月）については、滞りなく担うことができた。12月の事業としては、環境省主催「持続可能な開発のための教育の 10 年東海キックオフミーティング」、「第 1 回環境報告書を読む会」である。＊詳細は報告書参照

（1）維持管理業務：中部環境パートナーシップオフィス（以下ＥＰＯ中部）の適切な運営体制、施設の維持管理

開館日時：原則火曜日―土曜日　１０：００－１９：００　日・月曜日及び祝日、旧盆・年末年始は閉館

職員：常勤職員２名、非常勤職員１名のうち、ほぼ２名体制で業務を実施した。特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズの職員が業務のサポートをした。

実施業務

〇案内業務

１）来館受付、案内・説明、電話対応

２）施設利用者数の確認

３）パネル・パンフレット及び図書の整理・補充、ポスター掲示

・必要に応じ随時実施（開館時間内は、常時対応できる体制を確保）

・日々確認して記帳整理/必要に応じ随時実施

（2）環境情報の収集、提供業務

ＥＰＯ中部ホームページの管理・運営（更新基本的に月に２回）

（3）環境パートナーシップ推進業務

企業と市民の協働研究＆対話の場～第 1 回環境報告書を読む会

日時：２００５年 12月 21 日（水）　18:30-20:15

場所：EPO 中部

テーマ：東邦ガス株式会社「環境レポート２００５」を読む

「企業からの情報提供に市民はどう応えるか～双方向のコミュニケーション、対話の場の視点から～」

話題提供者：山口浩司さん（環境部環境推進グループ課長）磯村隆英さん（環境部環境推進グループ係長）

参加者　１８名

（４）地域活動支援業務

「持続可能な開発のための教育の 10 年」東海ブロックミーティング

日時：12 月 18 日（日）10：00～17：00　　17：30～19：00（懇親会）500 円

場所：新東通信株式会社（名古屋市中区丸の内３丁目 16 番 29 号）

テーマ：「持続可能な社会をつくる「教育のしくみ」を探る～」

参加費：無料（交流会のみ 500 円徴収）

参加者：66 名（内ゲスト：15 名　スタッフ：10 名）　交流会 28 名（内ゲスト:7 名　スタッフ９名）

主　催：環境省/

協　力：特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議　エコプラットフォーム東海/中部環境パートナーシップオフィス

「持続可能な開発のための教育の 10 年東海キックオフミーティング」準備会実施（6・16 日）

第 30 回全国公立学校事務長会「（仮称）環境にやさしい学校づくりをどう進めるのか」意見交換（27 日）

５）その他業務

平成 17 年度１～3 月事業の準備

＊環境基本計画意見交換会＆環境省重点事項ブリーフィング

開催時期：２月中旬から計３回　対象：30 名程度　場所：中部地方環境事務所

＊ESD 国内実施計画についての意見交換会

開催時期：２月初旬―中旬　１回　対象：30 名程度　場所：中部地方環境事務所

＊中部７県タウンミーティング～話そうよ！エコのこと、EPO のこと

開催時期：北陸・長野エリアー1 月に北陸および長野に打合せ　２月に実施予定

東海エリアー三重県２月 14 日実施　愛知・岐阜においては検討中

＊第２回環境報告書を読む会　２月 23 日（木）18:30-

ゲスト：中部電力株式会社片岡憲彦さん（環境・立地本部環境部環境経営グループ課長）

コーディネーター岸田眞代さん（特定非営利活動法人パートナーシップ･サポートセンター代表理事）

○今後の検討事項

１）スタッフの産休および代替スタッフについて

２）ＥＰＯ中部　他団体との関係について　共催・協力・後援、講師および委員依頼について

３）ＥＰＯ中部　スタッフローテーション

４）運営会議・評価委員の選定：中部７県タウンミーティング後、早急にその役割を明確にし、３月に委員を依頼する。

５）協働事業の評価軸の創出

○中部環境パートナーシップオフィス　月報　　155 名/18 日　8.61 人/日　問い合わせ　30 件

１２　月		来館者数 (相談・問合せ)	電話 (相談・問合せ)	相談・問合せ内容	スタッフ数
1	木	7(3)	1(0)	• EPO 中部 HP での「日本環境経営大賞」掲載に伴う挨拶、及び意見交換 • EPO 中部訪問	2
2	金	10(3)	2(0)	• EPO 中部訪問 • ESD ミーティングに関する日程等の問合せ	2
3	土	4(2)	4(0)	• 越前市エコビレッジ交流センターのパンフレット配置、送付に関する問合せ • EPO 中部訪問	1.5
4	日				
5	月				
6	火	8(3)	3(0)	• EPO 中部訪問 • 愛知県内における環境学習口座についての	2.5
7	水	6(2)	2(0)	• ESD についてのヒアリング • 環境報告書を読む会の打ち合わせ	3
8	木	18(6)	6(1)	• EPO 中部訪問 • RDF が有価物から廃棄物になったことを示す書面の確認についての問合せ	3
9	金	5(1)	5(0)	• NPO 活動の展開についてのヒアリング	2.5
10	土	0(0)	2(0)		2
11	日			•	
12	月				
13	火	9(1)	2(0)	• アクティブレンジャーの申込みについての問合せ	2.5
14	水	11(1)	5(0)	• EPO 中部訪問	2
15	木	10(0))	2(0)		2
16	金	8(1)	6(1)	• EPO 中部訪問 • ESD-t ミーティング謝金に関する問合せ	2.5
17	土	2(0)	3(0)		2.5
18	日			•	
19	月				
20	火	10(0)	0		1
21	水	23(0)	5(0)		3
22	木	2(0)	4(0)		2
23	金				
24	土	9(1)	6(0)	• EPO 中部訪問	2.5
25	日				
26	月				

27	火	13(4)	6(0)	・ 8 月に開催する環境にやさしい学校作りシンポジウムの打合せ	3
28	水				
29	木				
30	金				

○中部地区の環境関連団体の基礎資料の収集、管理

＊12 月期に収集した資料　行政関連：１４種　企業関連：４種　ＮＰＯ関連：１０種　ほか：１１種　計：３９

タイトル	年度	発　行	備考
豊田市自然観察の森 雑木林　2005 年　12 月号	2005	豊田市自然観察の森	A4　2P　日本語 2006.発行
川と共に生きる暮らしと文化の再構築を目指して ～岡山市京山地区 ESD 環境プロジェクト（岡山 KEEP）特集号～	2005	岡山ユネスコ協会	A4　6P　日本語 2005 発行
ESD レポート　2005 冬　vol.6	2005	（特定）「持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議（ESD-J）	A４　8P　日本語 2005.12.10 発行
エコパルなごや 秋・冬併号　VOL.37	2005	名古屋市環境学習センター　エコパルなごや	A４　15P　日本語 2005.発行
「国連・持続可能な開発のための教育の 10 年」人材育成プロジェクト 次世代に良い環境・社会を贈るサンタになりませんか？	2005	東北グローバルセミナー実行委員会	A４　2P　日本語
ESD がわかる！	2005.	（特定）「持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議（ESD-J）	B５　20P　日本語 2006 発行
白壁・主税・撞木 深緑に彩られた古い町並み。	1991	名古屋市教育委員会社会教育部文化課	B5　6P　日本語 1991.10.発行
中小田井 古き良き時代を伝える旧岩倉街道沿いの民家	1992	名古屋市教育委員会社会教育部文化課	B5　6P　日本語 1993.3.発行
四間道 城下町の面影	1999	名古屋市教育委員会生涯学習部文化財保護室	B5　6P　日本語 1999.11.発行
有松　四間道　中小田井　白壁・主税・撞木 個性のある町と暮らし	1999	名古屋市教育委員会生涯学習部文化財保護室	B5　6P　日本語 2000.3.発行
有松　旧東海道に立ち並ぶ絞りの商家	1998	名古屋市教育委員会生涯学習部文化財保護室	B5　6P　日本語 1999.1.発行
財団法人名古屋都市センター ニュースレター　Vol.65	2005	財団法人名古屋都市センター	A4　8P　日本語 2005.1 発行
「あいち県民グリーン運動大作戦」に参加しませんか？	2005	愛知県	A4　1P　日本語 2005 発行
事業者からの「CO2 排出削減マニフェスト」を募集します！ ～温暖化対策に対する貴社の取組を宣言しませんか～	2005	愛知県	A4　1P　日本語 2005 発行
日本車輌製造株式会社 2005 環境報告書	2005	日本車輌製造株式会社 中央環境委員会	A4　18P　日本語 2005.10 発行

シャープ三重工場 環境サイトレポート 2005 年度版	2005	シャープ株式会社モバイル液晶事業本部三重環境安全推進センター	A4　46P　日本語 2005.6 発行
環境　109	2005	社団法人環境創造研究センター	A4　23P　日本語 2005.11.21 発行
桑員地域（木曽崎・長島・多度・桑名・東員・員弁・北勢・大安・藤原）をつなぐ環境情報誌 エコリーグ・レター	2005	北勢県民局企画調整部内桑員エコリーグ事務局	A4　2P　日本語 2005.12.1 発行
ドイツなー日、私たちの農村文化交流 ～グリーンツーリズムを考えよう～	2005	三重県北勢県民局桑名農政部農政・普及室	A４　1P　日本語 2005 発行
エコエコナイト 『ブリッチャの森へようこそ！』 ブリッチャと一緒に環境について考えてみよう	2005	ブリッチャ エコスタジオ	A4　1P　日本語 2005 発行
防災&ボランティアフォーラム 2006	2005	愛知県防災局防災課/ 名古屋市消防局防災部防災室/ NHK 名古屋放送局事業部	1/3Ａ４　1P　日本語 2005.12 発行
Cabi ネット 12.01	2005	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4　50P　日本語 2005.12.1 発行
地域に（が）生きる　ECOM		（特定）エコ・コミュニケーションセンター	1/４Ａ４　1P　日本語
ORGAN　4　みずうちわ号	2004	（特定）G-net	A4　21P　日本語 2004.8.11 発行
開発教育・国際理解教育 実践報告フォーラム 2005!	2005	独立行政法人国際協力機構中部開発センター（JICA 中部）	A4　1P　日本語 2005.12.21 発行
平成 17 年度　JICA 中部の開発教育・国際理解教育　支援メニュー		独立行政法人国際協力機構中部開発センター（JICA 中部）	A4　34P　日本語
なごやボランティア・NPO センターの情報誌 ぼらんぽ　2006 年 1 月号　Vol.30	2005	なごやボランティア・NPO センター	Ｂ５　8P　日本語 2005.12.22 発行
NPO マネジメント講座 NPO か？会社か？　～いろんな企業のしかた～	2005	なごやボランティア・NPO センター	Ａ４　1P　日本語 2005 発行
NPO・施設　ボランティア担当向け ボランティア・マネジメント講座　～ボランティアと良い関係を作り上げるために～	2005	なごやボランティア・NPO センター	Ａ４　1P　日本語 2005 発行
買い替えるなら省エネ家電　冬こそ威力発揮!!	2005	あいち省エネ型家電製品普及協議会	Ａ４　1P　日本語 2005 発行
参加者募集中！ コーディネートカアップ全国研究セミナー	2005	（特定）エコ・コミュニケーションセンター	Ａ４　1P　日本語 2005 発行
セブン - イレブンみどりの基金 みどりの風　Winter 冬 2005	2005	セブン - イレブンみどりの基金	Ａ４　32P　日本語 2005.12.1 発行
Cabi ネット 12.15	2005	社団法人時事画報社/ 内閣府政府広報室	A4　50P　日本語 2005.12.15 発行
ASIA・PACIFIC：JAPAN+ January 2006 PERSPECTIVES	2005	社団法人時事画報社	A4　48P　英語 2006.1.1 発行
ボランティアNPOフェスタ2006　あなたの想いを未来へ	2005	なごやボランティア・NPO センター	A4　1P　日本語 2005 発行
環境政策提言 「世界の森林環境保全のための国内各層での“フェアウッド”利用推進事業に関するフィージビリティ調査」最終報告書	2004	環境省総合環境政策局環境経済課民間活動支援室/ 国際環境 NGO FoE Japan	A4　155P　日本語 2005.3.25 発行
第 1 回日本環境経営大賞 ～第 1 回受賞者の紹介～	2002	三重県環境森林部環境経営室内 「日本環境経営大賞表彰委員会」事務局	A4　12P　日本語
環境報告書　平成 17(2005)年版 よりよい三重の環境をめざして	2005	三重県環境森林部環境経営室	A4　38　日本語 2005.9 発行

所　見

12 月の事業としては２本だったが、どれもテーマ性があり、参加者を得られるかどうかとても不安であった。ESD も環境報告書も EPO にとっては重要なキーワードであり、今後より人をつなぎ、事業を生み出せるように具現化していきたい。EPO の PR がされるにつれ、新しい業務依頼が多くなってきた。どのように他団体と関係性を保ちつつ、新しい創造をしていくか試されているようである。一つひとつの出会いを大切に、芽を育んでいきたい。

企業と市民の協働研究と対話の場　環境報告書を読む会　報告書

第１回　２００５年１２月 21 日（水）　18:30-20:15

東邦ガス株式会社「環境レポート２００５」を読む

「企業からの情報提供に市民はどう応えるか～双方向のコミュニケーション、対話の場の視点から～」

話題提供者：山口浩司さん（環境部環境推進グループ課長）

磯村隆英さん（環境部環境推進グループ係長）

ファシリテーター：桜井温子　新海洋子

スタッフ　間島大仁

参加者　１８名

スケジュール

18:30　あいさつ（環境省中部地方環境事務所　近藤健課長）

開催趣旨の説明（中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー　新海洋子）

18:35　参加者自己紹介タイム

お名前・どこから・参加した動機・質問意見したいこと

18:45　東邦ガス株式会社プレゼンテーション

磯村隆英さん（環境部環境推進グループ係長）

19:15　グループ意見交換

「企業からの情報提供に市民はどう応えるか～双方向のコミュニケーション、対話の場から～」

20:10　感想交換

20:15　閉会のあいさつ

報　告

● 参加者自己紹介タイム～お名前・どこから・参加した動機・質問意見したいこと

参加者一人ひとりに自己紹介シートをお渡しし、書き込んでいただき、その後 30 秒ほどで自己紹介をしていただいた。

【参加した動機】

・企業の環境対策の実情を知りたい。協働はどこにあるのか探りたい

・工場の周りの住民とのコミュニケーションがあるのか知りたい

・エコリーダー制について知りたい

・会社の反応を知りたい
・環境報告書そのものについて知りたい
・企業・地域・組織・個人の取り組みについて知りたい
・CSR の実情を知りたい

【質問・意見したいこと】

・ガス事業者として CDM をどのように考えているか
・ガスと電力の比較
・地域住民とのコミュニケーションや協働事業はあるのか
・加害者と被害者が一体となって取り組むことはできるのか

●東邦ガス株式会社プレゼンテーション　　磯村隆英さん（環境部環境推進グループ係長）

30 分という短い時間の中でポイントを絞って、環境報告書の以下の部分の説明をいただいた。

＊１P　環境報告書全体の構成･読み方
＊9P　天然ガスは環境性に優れたクリーンエネルギー
＊11-12P　活動方針の説明
＊13-14P　環境行動目標
＊28、31、21P　ＣＯ２対策
＊22-24、32P　廃棄物対策
＊35-36P　地域社会貢献
＊7-8P　トピックス
＊５-8P　特集　天然ガスの可能性を広げる新技術の研究開発、そのひとつの技術である水素ステーション

●グループ意見交換～東邦ガスとコミュニケーションを深め協働するために必要なこと

２つのグループに分かれ意見交換をした。レポートの解説に対する質問と、テーマに即したアイデアを、それぞれポストイットに記入していただき後で、それを発表しながら、共通するものはまとめて模造紙に貼り出した。

【提　案】

・環境報告書はターゲットを明確化する。専門家、同業、取引先？市民、主婦？
・どういう人が読者の声として出しているのか、その意見かを詳しく掲載して欲しい
・環境レポートの中に家庭でもできる取り組みをいれてはどうでしょうか
・専門用語やデータを身近なものに置き換えてはどうか。CO2 何ℓなど社会的インパクトがわかるように
・アンケートの工夫（「東邦ガスと一緒に環境のためにできそうだと思うことは？」）などを聞いて、どんな意見があったか、アイデアコンテストやこんなこと実現しました、など
・環境行動のプロジェクトＸ的ページを設ける、別冊で共感を呼ぶようなものを制作してはどうか
・一方的に情報を提供されるのでなく、双方向コミュニケーションがとれるとよいのではないか

【意　見】

・専門用語の説明が補足で付いていたが、まだ分かりにくかった
・初心者には内容が理解できるか疑問
・環境報告書は多くの人に読まれることを期待しなくてもいいと思います
・環境保全活動上、企業として苦労している事項を簡明に（箇条書きなど）明らかに

【質　問】

・公共的企業として株主だけでなく社会に利益配分を考えていますか
・社会福祉活動は寄付だけでよいのでしょうか。→法定雇用率は満足されていますか
・企業市民と市民とはどのように異なるのでしょうか（同じでしょうか）
・中小企業の脱温暖化対策のためガスコジェネ導入の優遇措置がありますか
・外部の環境教育についてはどのようになっていますか
・LNG 製造の際、除去された硫黄、CO2 は産出国ではどうなっていますか
・企業にとって市民との協働とはどのようなことを考えていますか
・社員は「環境レポート」の内容をどこまで把握していますか
・様々な環境に対する取り組みをすることによって社員の意識はどう変わりましたか
・個人（社員）が環境活動（地域づくり）に参加するきっかけはいたるところにあるはずだと思う
・企業と市民の関係をそんなにかたく考えなくちゃいけないのでしょうか
・環境への意識を上げることを企業が一生懸命やらなきゃいけないのか
・事業内容での努力は必要だが、啓発活動をする責任はあるのか

【他ご意見・ご提案】

＊東邦ガス株式会社の環境活動について

・最低限法律を守っているか知りたい。（水質汚濁防止法・大気汚染防止法の各項目の測定結果）
・東邦ガスとして過去の負の遺産、例えば旧港明工場の土壌や地下水の汚染をもたらせた原因、その解明が欲しかった。また大気汚染をし、多くの住民の健康を侵した点への反省を前提とするとよかったと思う。
・旧港明工場跡地を自然の森に変えませんか。会社には土地だけ提供していただき、草樹木は市民が参加して植え、管理は近隣住民に委託することを考えたらどうでしょうか。（公園ではありません）CO2 吸収の「森」としてです。
・排出抑制とともに、緑の創出などプラスを増やすことも必要。
・森林整備（CO2 吸収）にも参加してはどうでしょうか。

＊企業と市民のコミュニケーションについて

・このような対話の場は必要かつ有効である。
・企業が情報発信できる場作りが必要。（例えば、環境情報への登録・なごや環境大学）
・環境報告書を作成するノウハウのない企業への情報提供

【グループまとめ】

桜井グループ：質問には、海外より原料を輸入する企業として産出国に対する責任や配慮を求めるものや、公共的であり、かつ環境対策優良企業として、他の中小企業への協力および社会的な貢献活動を求めるもの、企業としての独自の市民性を問うようなものが出された。これに対して、ひとつひとつ丁寧に、まだ会社の取り組みとしてはできていない現状など丁寧に答えていただいた。提案・アイデアとして最も多かったのは、環境報告書の位置づけや内容に対するもので、環境報告書が誰に向けて書かれたものか、という質問には、専門家や同業者向けだけでなければ、もっと一般にわかりやすく親しみやすい記述の方法が必要、環境報告書を通して読者と対話できるようなコーナーを設ける、家庭でできる環境の取り組みを紹介する、などの意見交換をした。他には、水質汚濁防止法や大気汚染防止法などの法律を守っているか、測定結果の記載などが必要だということもあげられた。大気汚染公害を発生した歴史を持つことをきちんと明示してその上で今の取り組みがあるということなどを説明するものも欲しい、この年次レポートでなくても別冊で制作してもよいのではという意見が出された。さらに、こうした大気汚染への対策として、抑制だけでなく、森林を増やすような取り組みが欲しいとの声に続いた。そして、このような企業の情報発信を社会に広めるような場づくりが必要だということにつながった。

新海グループ：まず、付箋紙に、質問・提案などを書いていただき、それぞれの思いを共有する時間をもった。その中で多く出された意見は社員や地域に対してのものでした。例えば、「社員はどこまでレポートを読んでいるのか、環境活動をすすめることで社員の意識はどのように変わったのか、社員が地域の環境活動に参加することはあるのか」、などです。担当者はボランティア休暇などがあり活用している社員もいるがまだまだ少なく、社員への環境教育・地域社会貢献活動は今後ますます力を入れてく必要がある、と話されました。また「レポートには努力の PR は多く見られるが実際の協働に向けての内容があまり見られない」「読み手との双方向のやり取りができるような工夫、参加できるような工夫があってもよいのでは」などの意見が出されました。「こんなことをやっている」という PR から抜け出して、ステークホルダーから「こんなこともしているから書いたら」といわれるような関係づくりをしていただきたいという声もありました。

●参加者の感想

・時間が足りない。もっと情報交換したかった。

・進め方がよかった。双方向のコミュニケーションを図ることができた。今後参考にしたい。

・環境報告書を使ってこのように意見交換をする場が必要なことを知った。もっと環境技術や社会貢献について知りたかった。

●主催者の所見・運営評価

本当に時間が短く、あっという間に過ぎてしまいましたが、社会を創造する企業と市民が、「地域」「環境」を思い、双方向に意見交換することができたと感じている。参加者からの感想として、「もっと時間がほしい、このような対話の場は必要かつ有効である、環境報告書を有効に使いたい」などの声をいただいた。「協働」までいきつくには、さらに議論を深めなければならないですが、一歩ずつ、近しい関係づくりをしていきたいと思う。。それが EPO 中部に求められている重要な役割だと再確認した会となった。

〇目的の達成：「環境報告書を使って協働の種を探す」が、この会の目的であったが、まだ関係性ができていないなか、そして大変短い時間の中、目標を達成することはできなかった。その前提となる、関係性づくり、「相手を知ろう」という思いを育むレベルの達成だと認識している。批判・中傷意見はほとんどです、建設的な市民感覚の意見が出されていたという点においては、この積み重ねが「協働の種」を育てるのではないかと思い、次の展開の検討に入りたいと思っている。

〇運営評価

参加者：15 名定員を上回る参加者を得ることができ、また大学生から社会人まで世代のひろがりもあり、よかったと思う。ＮＰＯ職員・ＮＰＯリーダーの参加が少なかったことが負の評価である。

事前の情報提供：東邦ガス株式会社から提供されている資料は事前に目を通すために郵送した。当日のスケジュールや運び方も同時にお知らせしておけば、当日の時間をもっと有効に使えたと思う。参加者の参加動機、質問なども事前にうけておくべきだったのではと反省している。

当日の運営：想定していたよりも、参加者が多く、一人ひとりの思いを引き出すことがじっくりできず、うまくグループディスカッションができなかった。次の機会にはじっくりコミュニケーションを図れたらと思っている。また、時間がなく、参加者全員の感想・意見を伺うことができなかったことも反省の一つである。

打ち合わせ：事前に２回ほど打ち合わせをしたが、そこにも企業とＮＰＯの手法の違いが見られ、一つひとつがお互いを理解するためのプロセスとなっていることに気づかされた。「協働」ありきではなくて、何かをともに創りあげるなかで、違いを認識し、理解を深め、補完しあい、協働の成果を導くことを実感した。

企業と市民の協働研究と対話の場　環境報告書を読む会

第1回　2005年12月21日（水）　18:30-20:15

東邦ガス株式会社「環境レポート2005」を読む

「企業からの情報提供に市民はどう応えるか

～双方向のコミュニケーション、対話の場から～」

話題提供者：山口浩司さん（環境部環境推進グループ課長）

磯村隆英さん（環境部環境推進グループ係長）

ファシリテーター：桜井温子　新海洋子

スタッフ　間島大仁

参加者　18名

スケジュール

18:30	あいさつ（環境省中部地方環境事務所　近藤健課長） 開催趣旨の説明 （中部環境パートナーシップオフィスチーフプロデューサー　新海洋子）
18:35	参加者自己紹介タイム お名前・どこから・参加した動機・質問意見したいこと
18:45	東邦ガス株式会社プレゼンテーション 磯村隆英さん（環境部環境推進グループ係長）
19:15	グループ意見交換 「企業からの情報提供に市民はどう応える

	～双方向のコミュニケーション、対話の場から～」
20:10	感想交換
20:15	閉会あいさつ

この会の重要ポイントは「双方向コミュニケーション」です。協働を生み出すためには、知り合うこと、理解することが大前提であり、そのために必要なのは、お互いを知り合うための「双方向コミュニケーション」です。「協働の種」を見つけるために、環境報告書を使って、東邦ガス株式会社の環境活動について約 90 分、20 名弱の参加者と双方向コミュニケーションの場を持ちました。

まずは参加者全員の自己紹介です。あらかじめ、参加動機や質問・意見したいことを伺いました。「企業の環境対策の実情を知りたい、協働はどこにあるのか、工場の周りの住民とのコミュニケーションがあるのか、社員の環境に対する意識を知りたい、ガスと電力の比較について知りたい、地域住民とのコミュニケーションや協働事業はあるのか」などみなさんの関心事が寄せられました。

その後、そんな期待に応えるべく、東邦ガス株式会社磯村さんからのプレゼンテーション。環境報告書全体の構成・東邦ガスの活動の実績から始まり、事業活動と環境負荷、環境方針や環境行動目標について、地域社会貢献活動など多岐にわたる説明をいただきました。環境報告書作成にあたっての「熱い思い」を垣間見ることができました。

残りの時間は、グループ意見交換です。今日のテーマは「東邦ガスとコミュニケーションを深め協働するために必要なこと」で、2 つのグループに分かれて建設的に意見交換しました。

参加者からは、

・環境報告書はターゲットを明確化してはどうか
・専門用語やデータを身近なものに置き換えてはどうか
・環境保全活動上、企業として苦労している事項を簡潔にかいてはどうか。
・最後にあるアンケートの項目に、「東邦ガスと一緒に環境のためにできそうだと思うことは？」などをつくり、アイデアコンテストやこんなこと実現しました、といった双　方向のコミュニケーションを図る工夫をしては、

などの提案や、

・専門用語の説明が補足で付いていたが、まだ分かりにくかった
・初心者には内容が理解できるか疑問

などの意見が出されました。

また、

・企業市民と市民とはどのように異なるのか
・企業にとって市民との協働とはどのようなことを考えているのか
・社員は「環境レポート」の内容をどこまで把握しているのか
・様々な環境に対する取り組みをすることによって社員の意識はどう変わったか
・LNG 製造の際、除去された硫黄、CO2 は産出国ではどうなっているのか

といった質問が出され、それにお答えいただきながら、現状認識を深めつつ、多様な意見・アイデア・提案を交わすことができました。

大変時間が短く、あっという間に過ぎてしまいましたが、社会を創造する企業と市民が、「地域」「環境」を思い、双方向に意見交換をすることができたと感じています。参加者からの感想として、「もっと時間がほしい、このような対話の場は必要かつ有効である、環境報告書を有効に使いたい」などの声をいただきました。

「協働」までいきつくには議論を深めなければならないですが、一歩ずつ、近しい関係づくりをしていきたいと思います。そして、それが EPO 中部に求められている重要な役割だと再確認した会でした。東邦ガス株式会社、山口さん、磯村さん、参加してくださった方々ありがとうございました。（新海）

次回の環境報告書を読む会は、2006 年 2 月 23 日（木）。話題提供者として、中部電力株式会社環境部片岡憲彦さん（環境・立地本部環境部環境経営グループ課長）をお招きします。場所は環境省・中

部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）、定員 15 名（先着順）です。参加申し込みは電話・FAX・E メールにて受け付けます。

運営業務（10-12 月期）データ報告

（1）EPO 中部維持管理業務

	10 月	11 月	12 月	3 ケ月平均
開館日数	19 日	20 日	18 日	19 日
来館者数	137 名	222 名	155 名	171.3 人
1 日平均来館者数	7.2 人	11.1 人	8.6 人	8.9 人
問い合わせ件数	14 件	43 件	30 件	29 件

（2）EPO 中部広報業務/環境情報の受発信

①情報収集

	10 月	11 月	12 月	合　計
行政関連	15	15	14	44
企業関連	33	9	4	46
NPO 関連	15	31	10	56
他	0	17	11	28
合　計	63	72	39	174

（3）ホームページアクセス数

【10-12 月業務を終えて/今後に向けて】

10 月以降は、（1）維持管理業務（2）中部オフィスの広報・後援業務（3）環境パートナーシップ推進業務、（4）環境情報の収集・提供業務、（5）地域活動支援業務、（6）運得員委員会の設置準備・開催、（7）その他業務の７本柱となり、優先準備を考え、業務を遂行している。まずは、お披露目である「オープニングフォーラム」そして環境省が今後重点的にすすめるであろう「持続可能な開発のための教育の 10 年」を地域ですすめるための会議、企業との環境パートナーシップの芽を探る「環境報告書を読む会」である。どれも、ヒトとの関わりを大切にはぐくみ、EPO 中部ファンが増えるように実施している。まだまだ、EPO 中部の存在、その役割や目的は十分には知られてはいないが、事業をすすめながら、着実の広め、環境パートナーシップの可能性を探っていきたい。

また、EPO 中部の管理運営そのものが環境省と NPO の協働事例であり、管理運営のありかたやプロセスにも「協働のプロセス」を創造しながら、課題を見つけ、成果をつくり担っていきたいと考える。そのためにも、開かれた運営委員会（仮称）、客観的に評価していただける評価委員会（仮称）の準備も早急に進めなければいけない。

今後の重点的取り組みとして考えるのは、上記の EPO 中部の運営のあり方について意見交換する場づくり、主に北陸地域に出かけ EPO 中部の PR と協働の可能性をさぐること、などがあげられる。これまで、施設や情報整備に力を注いできた分、外部との連携を進める。情報提供のツールである、ホームページも双方向コミュニケーションを可能になるようなしくみを検討していきたい。また情報源となる書籍の充実、情報提供のしくみ、閲覧コーナーの展示の工夫などにも取り組む。先月に実施した ESD については国内実施計画への意見交換を促す意味もあり、ESD－Ｔの学習会実施なども考えている。「協働」についての理解を促進をていねいにすすめたい。

本報告書は、古紙配合率 100%、白色度７０の再生紙を使用しています。